

大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「孫悟空が生まれた国」⑩ 最終章

わが輩の先祖は猿なのか。ダーウィンの進化論からいえば、わが輩も読者諸氏も猿の子孫である。先生のいう「猿」はそれとは違う。インダス文明に関係している。その説のおさらいをしてみよう。

メソポタミアで栄えた農耕文化を<ウバイド文化>と呼ぶそうである。この文化では、金属・宝石などの製作がなされていた。ところが、このウバイド人たちは、紀元四千年前に忽然として消えてしまった。理由は分からないが、存在そのものが消えたのではなく、移動してしまったと思われる。

さて、どこに行ったのか？

インダス流域に移動しドラヴィダ族の源になった。かれらは農耕文化に加えて、各種の工芸技術を身につけていた。その一つは紅玉髓（カーネリアン）である。

わが輩はアラビア海に近いドーラヴィーラー遺跡（紀元前 3000 年）に二回行ったことがある。そこで瑪瑙や玉髓を研磨するための加工石をみたことがある。この文化も忽然として消えてしまった。

ドラヴィダ族は移動するにしたがって、二つの側面をもつようになった。海の民（海上移動の職能集団）と山の民（定着の農耕集団）である。このドラヴィダ族の分派が「サルタヒコ族」だと先生は推測している。サルタヒコ族の一部がオリッサ州に定着した。ゴンド族（山の住人）やアーリア人と融合し、彼らの融合神がジャガンナート神となった。ベンガル湾に面した聖地プリーに主神として祀られている。

ところで、ジャガンナート神はもともと山の民の神であったという説がある。大地に木杭を打ち立て、天と地をつなぐ聖木を神とした。この木杭信仰は、メガラヤを初めヒマラヤ山中に点在している。

この海の民サルタヒコ族が、プリー海岸からインドネシアの島々を巡り、中国や琉球諸島を経て日本に流れついた、というわけである。彼らは職能集団であるので、次の仕事場をもとめて移動するのを習性としていた。また、前述したように「神の下僕である猿」を崇める山の住人とも融合している。

ところで「わが輩はサル」伝説の話に進もう。先生曰く、

四国に大麻比古神社というものがある。ここの主神は「猿田彦」大神である。猿田彦は神武天皇の勅命により行動していた。また猿田彦は神武天皇の案内人でもあった。

読者諸氏はすでにご存じのように、わが輩の本名は「大麻」である。つまりわが先祖は日本建国と

関係がある神武天皇が東征したときの案内人であった、というわけである。

これらを逆に辿ってみよう。大魔王→日本の猿田彦→インドのサルタヒコ族→オリッサのジャガンナート神→ゴンド族の神、即ちインドの「サル」ということになる。即ちわが先祖はインド人。

やっと結論に達した。「わが輩は猫である」のではなく、「わが輩はサル」である。ちなみにインドで猫はあまり縁起がよろしくない。ところが猿は神さま扱いである。すでに述べたように、インドの猿王ハヌマーンは神さまである。

わが輩こそ、神の下僕ハヌマーンの生まれ変わりである、かも・・・。

昭和36年発刊の『日印文化』（関西日印文化協会）に、「インドの猿をたずねて」（吉場健二著）の紀行文が掲載されている。猿学者吉場の渡印の第一目的は、雪男を探すことであった。シッキムのカンチェンジェンガ峰で土地の猟師と二人で雪男を探す予定であった。吉場は雪男を猿の一種だとおもっていたのだろうか。ところが中印国境問題で許可がでなくて計画を変更することになった。

小野田寛郎元少尉をルバング島で発見したヒッピー仲間の鈴木紀夫も雪男を探しにでかけたが、行方不明になってしまった。

雪男が類人猿か人間か、永遠の謎となってしまった。

この紀行文に、小児マヒワクチン用の猿のことが載っている。実験のために東南アジアで猿の国際的争奪戦が始まっていた。だが、インドには争奪戦がなかった。なぜならサルは神さまだからである。ところが現実には捕獲人が猿を捕らえて、それを輸出業者が集めて輸出していた。大型飛行機だと一度に二千頭の猿が運べた。年に十万頭近い猿が輸出された。もちろん信仰深いインド人を刺激しないようにインド政府が監督していた。

「私達の立場からすれば、医学の実験やワクチンづくりで猿を使うのに協力するという事はいい気持ちがない」と吉場は述べている。

中国では日常の「食は広州にあり」の看板通りに、カブトガニ、山椒魚、アルマジロ、蛇などを竹籠に入れて市場や食堂の前に置いてあった。五十年程前だが、“奇食”として猿の脳みそを食する映像をみたことがある。

食の欲望、領土覇権の欲望、チベット、ウイグルの管理支配の欲望は果てしないものがある。

猿にだって、人権ならぬ“猿権”があるはずだ。猿に“猿権”があるなら、人間にはもっと人権があるはずである。サル（ハヌマーン）が神さまなら、人間はもっと神さまに近いはずである。それを中国本土の孫悟空（人権派）は忘れてしまったのか。孫悟空よ、香港人権派のために、ひと暴れしてみせてよ。